

「日本プロオーケストラファンクラブ協議会」第4回総会資料

2010年9月4日

団体名 広 響 フ レ ン ズ
担当者 佐 藤 幸 一

1. 現 在 の 状 況

昨年末、広島交響楽協会より、

時制にあった新しいファンサービスの内容にするために、広響フレンズのスタッフ(世話人)体制を解散し、自由な活動が可能な新しいファンクラブを作ってほしい。

協会に存在する、「個人会員」「定期会員」「フレンズ会員」すべてを対象にしたファンサービス活動を、協会自身で企画運営することを予定している。

その際、旧フレンズスタッフにも、運営などについて助言や協力をお願いしたい。

との提案がありました。

この提案は、10年余に渡るフレンズスタッフの活動を全く評価せず、単なる切り捨てであることは明らかであつたので、楽団員(ユニオン)も参加した三者会談を数回開き、交渉しました。その結果、

スタッフ部門の解散は変更できないが、新しくファンクラブが発足すれば、協力する。

ファン層の拡大のために一緒に努力していきたい。

この間の経過、今後の予定などを会員に報告できる総会を協会主導で開催する。

という回答を得、現在、具体化のため協議中です。

2. 現 在 の 活 動

フレンズ会員を対象にした行事は、昨年6月開催の「第9回総会と交流会」を最後に開かれられない状態です。

(その他の活動)

フレンズスタッフ(世話人)作成の「フレンズ通信」と次回定演頃迄に行われる、広響団員関係のコンサート一覧案内チラシをフレンズスタッフが作成し、定演時に配布する。

定期演奏会時、会場ホールロビーに「広響フレンズコーナー」を設けて、広響及び団員の活動案内(新聞記事等の紹介)やフレンズ加入の訴えをしている。

昨年12月の、事業仕分けに対する抗議活動に対する協力。

3. 広響フレンズの沿革

広響フレンズは、1998年、楽団への支援を強めるため、協会と楽団員により、設立されました。

個人に負担にならない額として会費年3000円とし、広響主催演奏会の入場料20%割引、機関誌「トレント広響」の年4回配布、楽団員との交流、指定店舗における割引の特典があります。現在の会員数は400名位です。

この「楽団員との交流」がフレンズスタッフ中心に具体化されてきたため、実質的にファンクラブと認識されてきました。

2000年より、総会(又は交流会を含む)9回、ボウリング大会3回、野外交流会5回の規模の大きな行事を中心に活動してきました。これらは協会からの援助金により、通常より安い参加費でまかなえたこともあり、全体で100名を超える規模になったこともありました。

その他、スタッフ、団員の企画による定期演奏会後の交流会を何度も開いたこともありました。

しかし、国、自治体からの協会への補助金が削減された結果、フレンズの活動への援助金がなくなり、企画できる行事も参加会費のみでまかなう手作りのものになりました。

他のファンクラブの状況を知る上でも重要なので、この交流会には2006年の発起会より、1~3名が参加しています。